

ある会合で偶然隣の席になった方から「会報で箱ひげ図、楽しく見ました」とお話をいただきました。話の中で、かつて都の中学校数学教育で活躍された先生と気づき有難いお話を続けることができました。また、「自分は上の箱に入っていて、散らばり具合がやや多いということが分かりました」と旧知の間柄の先生からも有難い感想を頂くこともできました。

このことがあり、今回は令和2年度の年齢箱ひげ図と、令和6年度のデータから会員の年齢箱ひげ図を表計算ソフトで作成して並べてみました。左図は、「二つの「箱」と、上下に二本の線、この二本の線を「ひげ」と称し、箱ひげ図と名づけています。それぞれの「箱」「ひげ」に入っている人数は全体を4等分された同数であることに注意です。「ひげ」の長さ二本と「箱」の二つの縦の長さが違います。令和6年度の図では②の66歳、72歳の幅は他の幅と比べて狭く年齢の散らばり具合が少ないことを示しています。

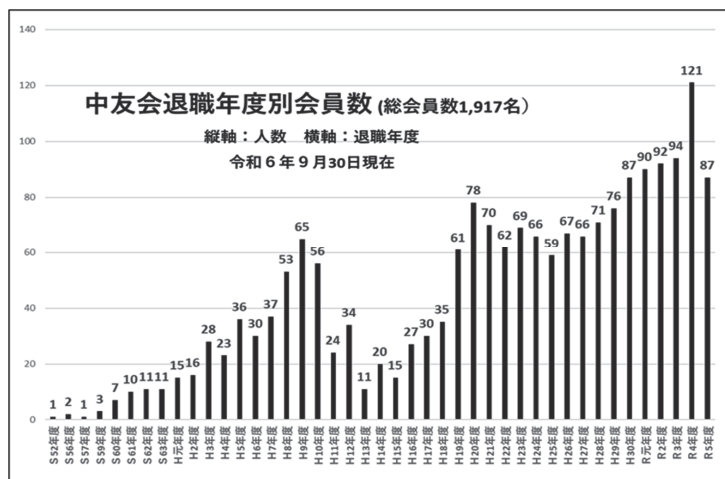


会員の方々の立ち位置と

中友会会員の全体像

中友会副会長 八島 行久

×印は平均値、72は大切な数で全体の数を小さく大へと順に並べたときの真ん中に位置する数、これを中央値と言います。今回は単独の箱ひげ図



[発行所]

中友会

港区西新橋1-22-13
全日本中学校長会館202号室
東京都中学校長会事務局内
TEL 03-3504-8705
FAX 03-3504-8706

会則第2条

親睦
互助
生涯学習

<https://chuyu-kai.org/index.html>

でしたが、今回は二つの箱ひげ図を並べ、「比較」という本来の箱ひげ図の機能が使えました。中学3年生では授業の中で扱われ、全国学力学習状況調査「数学」で箱ひげ図の読み取り問題が出題されています。

箱ひげ図の大きな強みは、二つの「箱」と二本の「ひげ」に入っているデータからそれぞれの散らばり具合・中央値・平均値を示すことができることです。しかし、弱みとして、年度別の分布を表すことはできません。

このことを補完するために、退職年度別会員数のヒストグラム(上図)を作成してみました。退職年度の長さ(人数)にけっこうな違いが出ています。このヒストグラムの大きな強みは年度ごとに退職された人数をはっきり示すことができることです。しかし、箱ひげ図が表している散らばり具合・中央値・平均値は分かりません。

箱ひげ図とヒストグラム、その「強み」と「弱み」いかがでしたでしょうか。二つを見比べながら、会員のお一人お一人がどの位置に立っているのか、中友会会員の方々の全体像などをご理解いただければ誠に幸甚に存じます。

さて、①②の層に属している会員の方々は、現在、働き方改革・定年延長などの制度改革の中で、現場を中心に、豊かな経験を活かしてご活躍のことと思います。

③の層に属している会員の方々は、ひと仕事を終えられ、ご自分の趣味を生かしたり、様々な団体でご自身らしさを発揮されたりしているのではないのでしょうか。

この層にいる私事で恐縮ですが、自然の摂理通り②の層から③の層に移り、平均年齢も超えましました。

④の層の会員の方々は、長きに渡り中友会の活動を支えてくださった先輩会員、人数は全体の4分の1に過ぎません。①③に属する多くの会員の方々は、お世話になった先輩として、校長会や様々な研究会などで一緒に活動された方も多くいらつしやるのではないのでしょうか。時々、叙旧関係含めてお電話や有難いお手紙を頂戴することがあります。どうぞ、御身大切に、お元気にお過ごしになれますことを心よりご祈念申し上げます。